2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
形態系分野	機能代謝画像診断学特論Ⅰ・Ⅲ	福倉 良彦

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

総合診断学における機能・代謝画像診断学の役割を理解し，機能代謝画像診断の医学研究を遂行できる能力を修得する。

授業到達目標

（1）症例の臨床情報と画像所見から，総合的な鑑別診断を挙げることができる。
（2）形態画像と機能・代謝画像との関連および使い分けを説明できる。
（3）Power point を用いたプレゼンテーションの準備が適切にできる。
（4）機能・代謝画像医学研究の進め方を身につける。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	月	8:30-9:30	福倉 良彦	講義	[症例検討会]	症例検討、結果発表 [場所:画像診断センター1 階読影室]
2	毎週	火	8:30-9:00	福倉 良彦	演習	[症例検討会]	症例検討、結果発表 [場所:画像診断センター1 階読影室]
3	毎週	木	17:00-18:00	福倉 良彦	講義	[症例検討会]	肝胆膵カンファレンス（肝胆膵内科，消化器外科，病院病理部） [場所:14 階中病棟カンファレンス室]
4	毎週	金	8:30-9:00	福倉 良彦	講義	[症例検討会]	症例検討、結果発表 [場所:画像診断センター1 階読影室]
5	毎月	1 回	16:30-17:00	福倉 良彦	講義	[症例検討会]	心筋血流カンファレンス（循環器内科） [場所:14 階中病棟カンファレンス室]
6	毎月	1 回	16:00-17:00	福倉 良彦	講義	[抄読会]	MRI 抄読会 [場所: 2 階中央放射線部管理室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1）1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）1年間※で，論文紹介または症例発表を2回行い，その要約2編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）1年間※で，論文紹介または症例発表を2回行い，その要約2編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※1～3年生は2月末まで，4年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

症例検討会および紹介論文の要約について，添削して返却する

教科書

ISBN-9781496360694, Radiology review manual, Wolfgang Dähnert, Wolters Kluwer, 2017
ISBN-9780323765305, Nuclear medicine, Paige A. Bennett, Elsevier, 2020

参考書

ISBN-9784758316125, Dual-energy CT： 原理を理解し臨床で活用する，粟井和夫編集，メジカルビュー社, 2019
ISBN-9784758321020, MRI 応用自在，高原太郎監修 ； 堀正明編集 ； 本杉宇太郎編集 ； 高橋光幸編集，メジカルビュー社, 2021
ISBN-9784780908749，これでわかる拡散 MRI，青木茂樹，阿部修，増谷佳孝，高原太郎編著，学研メディカル秀潤社, 2013
ISBN-9784830637643，わかりやすい核医学 ：textbook of clinical nuclear medicine，玉木長良，平田健司，真鍋治編，文光堂, 2022

準備学習（予習・復習等）

（1）各カンファレンスの症例について画像所見と鑑別診断をノートにまとめておく（約 30 分程度）。
（2）紹介論文に関連する内容について復習する（約 30 分程度）。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

（1）教育的あるいは診断が困難であった症例の画像所見を通して，病態の考え方を修得する。
（2）課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。

注意事項・メッセージ

（1）臨床情報と画像所見から総合的に病態を考える習慣を身につけてください。
（2）常に書籍や論文を調べる習慣を身につけてください。